

グチは一度目は聞いてあげよう。
二度目は話題を変えてあげよう。

斎藤
茂太

CONTENTS

Vol.245

1 特集 新時代の医療提供体制を探る

職員だれもが思いをきちんと発信できる文化を醸成し
健康増進、医療、介護をシームレスでつなぐサービス提供を目指す
社会医療法人同心会
古賀総合病院
理事長 古賀 倫太郎氏

6 The front hospital ザフロント ホスピタル

急性期から在宅まで幅広く支える外科手術で
地域に根差して「100周年」を目指す
医療法人
橋本病院
理事長 橋本 忠通氏

10 開業奮闘記

整形外科たけなかクリニック
院長 竹中 孝氏

14 私たちの流儀

国内の腸内細菌叢移植の研究・開発を牽引する
順天堂大学大学院医学研究科
腸内細菌療法リサーチセンターセンター長
石川 大氏

18 コンサルタントレポート

人材確保難時代の医療現場に必要な「対話力」
～組織変革と個人のやりがい・成長を同時に起こすシステム・コーチング™～
株式会社コーチ・エィ
執行役員 大塚 志保氏

22 Healthcare Management News

ヘルスケアマネジメントニュース

24 サクシードメンバーズ インフォメーション



職員だれもが思いをきちんと発信できる文化を醸成し
健康増進、医療、介護をシームレスで
つなぐサービス提供を目指す

社会医療法人同心会
古賀総合病院
宮崎県宮崎市

社会医療法人同心会古賀総合病院は1951年に
JR宮崎駅前に開業し、94年に現在の池内町に新
築移転。以降は、宮崎市北部や西都児湯地域を中
心に地域医療を担ってきた。2019年、古賀倫太郎
氏が理事長に就任してからは、地域医療の充実に
加え、都会に引けを取らない先進・高度医療の提供
にも力を注いでいる。



社会医療法人同心会
古賀総合病院
〒880-0041
宮崎県宮崎市池内町数太木1749-1
TEL:0985-39-8888
URL:https://www.kgh.or.jp/

■診療科目:内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、消化器外科、循環器内科、外
科、整形外科、眼科、肛門外科、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、気管
食道外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、精神科、皮膚科、心臓血管外
科、肝臓内科、腎臓内科、血液内科、内分泌代謝内科、感染症内科、病理診断科
■病床数:362床(一般病棟271床、精神病棟91床)

職種に関わらず、 プロとして平等に 発言できる組織づくりを 目指したい

社会医療法人同心会 古賀総合病院
理事長

古賀 倫太郎氏



患者さんにとって一番良い 医療提供を目指し、「お医者様 文化」の風土変革に着手

「長年、東京のがん専門病院で勤務していたため、2013年に当院に戻ってきたときは、いろいろな意味で『真逆のところに来たな』という印象を持ちました。第一に、地域医療を提供するには、がんだけでなく幅広い疾患に対応する必要があり、偏った専門的知識ではなく、総合力が必要だと感じました。次に印象的だったのは『お医者様文化』が残っていたことです。各職種はチーム医療のために、個々の職責を全うしているものの医師に対して発言することを遠慮してしまう状況でした。このような環境を変革しないといけないと感じました」と古賀倫太郎理事長は振り返る。

がん専門病院では、国家資格を持つ多職種がそれぞれのプロとして、患者さんに対して何がベストかを考え、対

等に発言していた。古賀理事長は、当時の古賀総合病院では医師以外の職種が医師と対等に意見交換できていないと感じた。患者さんに一番良い医療を提供するために、組織文化の変革に着手した。

当初は、周囲の看護師に「医師に対し、自分が思っていることを率直に伝えなさい」と促した。けれども、古賀理事長（当時副理事長）には話せても、別の医師には言えないという看護師が多く、なかなか組織変革は進まなかった。

変革が進み始めたのは19年、理事長に就任し、業務改善プロジェクトを立ち上げたのがきっかけだ。古賀理事長は、「古賀総合病院をもっとよくするためのプロジェクトを立ち上げます。みんなで取り組みませんか」と、職員全員にメールを送信。約900名の全職員の中から、40名弱が集まった。職歴が長い人、短い人、肩書がある人、無い人、さまざまな立場の人たちが顔をそろえた。

「変えたい、変えなければと思いつつも、一人ではうまくいかない」と悶々としていた職員が、私が旗振りをしたことで、仲間がいる、チャンスが来たと感じてもらえ、職員が集まってくれたのはとてもうれしかったです。変えていけると



宮崎市北部地域の医療サービス提供の要



部門の枠を超えて職員が語り合う「KOGA cafe」

いう希望も持て、心強く感じました」と古賀理事長は語る。

改善に向け、 4つのプロジェクトを推進

メンバーが集まり、グループワークをしながら組織の課題を抽出。コミュニケーション、人事考課のあり方、健康増進施設の業務改善、エコロジー活動の4つに取り組むことにし、約40人のメンバーがそれぞれのプロジェクトチームに分かれて取り組み始めました。

コミュニケーションに取り組んだチームは、病院1階にある喫茶店を会場に月1回、1つのテーマについて話し合う「KOGA cafe」を開催。「新人さんいらっしゃい」や「漫画好き集まれ!」など、さまざまなテーマで実施している。趣味をテーマにした回では、通常業務ではなかなか関わるのが少ない他部署の人とも交流でき、新人を囲む会では、自己紹介や将来の夢などを話すことで、先輩の輪に溶け込みやすい雰囲気生まれた。

特集 新時代の医療提供体制を 探る

人事考課チームは、それまで周知できていなかった考課の仕組みを分かりやすく伝える方法を実践。制度の見直しを行うなど、制度の整理に尽力した。

メディカルフィットネスチームは、現場で起きている課題を小さなことから解決していった。トレーナーが対応していた、受付業務や施設内のゴミ回収といった雑務を削減し、トレーナーでなければできない仕事への注力と利用者に関わる時間の確保を促した。デジタル機器を入れて自動受付にするなど、業務の効率化も進めた。

エコ活チームは、消費電力の削減を各部署で推進。一定の成果を残すことができたため、プロジェクトは終結し、施設課が引き継いで目標管理している。

古賀理事長は「4つの取り組みを通じて組織が変化したのか、数値的に評価すること自体はまだ難しい状況です。ただし、自分たちで物事を変えられる実感を持てるようにはなったのではないかと思います。以前に比べて、自ら発言してくれるようになってきました」と職員の取り組みを評価する。

今後は、法人組織の活動として拡充する計画だ。既存



地域周産期医療センターとして市北部の産科医療を支える



メディカルフィットネスの利用者とウォーキングイベントを開催



フェスタは、医師・看護師以外の医療職の仕事を知ってもらう機会になっている



最新の放射線治療機器など、都会と変わらない医療提供を目指す



組織の変革を目指し、職員育成のためにコーチングを導入



中学生を対象に医療体験フェスタを開催



ロボット手術のダヴィンチを導入



クリニックとの連携強化のために診療科紹介冊子を作成

のTQM推進室の人員を増員し業務改善を推進する核となる部署として運営していく考え。業務の数値化、見える化を進め、職員全体で標準化できる指標を作り、さらに取り組みを強化していくという。

理事長自ら診療所を訪問し、顔の見える地域連携に取り組む

宮崎市内には、市の中心部に公立病院が位置し、それを取り巻くように東西南北、大学病院や民間病院などがバランスよく配置されており、古賀総合病院は北部に位置する。市内だけでなく、市北部にある西都児湯医療圏や日向市までをカバーできる立地であり、北側医療圏の窓口的な立ち位置となっている。

古賀理事長は「全国的に人口の減少に伴う病院の再編が進む中、当院でも規模の維持は課題の1つと捉えています。当院の強みである消化器内科・外科、血液内科を中心としたがん診療、透析センターや代謝内分泌科は継

続していきたいと考えています。特に甲状腺疾患は、市内で診療できる施設が少ないうえにニーズが高いため、今後も重要な診療科になると位置づけています。また、地域周産期母子医療センターとして、市北部の産科医療を支えていく立場であると捉えています。診療科のスリム化については議論していますが、地域のニーズや人員確保など様々な要素を加味して、環境に即した形を模索していく必要性があると考えています」と話す。

同院は、地域医療支援病院として、約200件の診療所と連携している。定期的に懇親会を開くほか、同院からの情報発信にも力を注ぐ。広報誌の定期発行のほか、外科であれば「外科ニュース」を作成し、紹介患者さんの報告書に同封する。各診療科医師の顔写真を入れたパンフレットも重要な連携用ツールだ。毎年、情報を更新し、各医師の専門領域や新しい取り組みを紹介。紹介患者さんの増加につなげている。

古賀理事長や院長である石川医師は、年に1度は、市内の各クリニックや病院にあいさつに出向く。トップ自らが動くことで、連携医療機関の信頼を得ている。

「クリニックの多くは土曜日午前、診療しており、手術が必要な患者さんや急患を転送するのに苦労していると聞きました。そこで当院は、土曜日の当直は必ず外科医を配置するように変更しました。当院は、できるだけ地域のクリニックの要望にこたえる役割を持った病院です。ニーズにこたえなければ、より良い連携体制を構築することは難しいと考えています」

新たな試みとして、2024年から、市内の中学生を対象に「KOGA医療体験フェスタ」を開始した。コメディカルを中心に、病院ではどのような仕事をしているのか体験してもらうイベントだ。

「宮崎は、県内で教育できる職種が限られています。薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士などは県外で勉強し、県内に戻ってくれるのを待つしかありません。将来的に専門職の確保が難しくなると考え、医師、看護師以外の職種もあることを知ってもらう機会にしたいと考えています」

古賀理事長は今後について「法人理念として『医療、介護、福祉サービスを継続して提供します』を掲げ、トータルヘルスケアで地域に貢献することを目標としていて、健

康増進、医療、介護との連携がシームレスにおこなえるよう、さらに改善していきたいと考えています。病院に関して言えば、『地方でも都会と変わらない医療を』を合言葉に、ロボット手術や放射線治療機器、リードレスペースメーカーなど、新しい技術、高度な技術を導入し、地域を引っ張る病院でありたいですね」と語る。

特集 新時代の医療提供体制を 探る

HOSPITAL DATA

ホスピタルデータ

- 1951年、医療法人同心会設立。
- 94年、古賀総合病院を池内町へ新築移転。
- 2000年、腎センター増築。
- 03年、古賀病院精神科を古賀総合病院へ移転、ストレスケア棟開設。
- メディカルフィットネスフィオーレ開設。
- 08年、宮崎県地域周産期母子医療センターに認定。
- 10年、がん治療センター、内視鏡外科手術センター新設。
- 11年、地域医療支援病院承認。
- 12年、社会医療法人認定。
- 14年、へき地医療支援開始。